

多段接ぎ木ナスの青枯病発病抑制効果

研究のねらい

県内ナス栽培において、土壌伝染性病害である青枯病および半身萎凋病による被害が問題になっています。しかし、両病害に対して強い抵抗性品種は育成されていません。そこで、半身萎凋病に対して強い抵抗性を持つ「トナシム」などを台木とし、青枯病に強い抵抗性を持つ「台太郎」を穂木と台木の間に接ぎ木（中間台木）した「多段接ぎ木」により、両病害に抵抗性を持つナス苗の、露地栽培での青枯病抑制効果を確認しました。

技術の特徴

- 1 多段接ぎ木ナスは、半身萎凋病に抵抗性を持つ「トナシム」などを台木に、青枯病に強い抵抗性を持つ「台太郎」を中間台木としています（写真）。



写真 多段接ぎ木ナス苗の草姿
写真はベルグアース（株）提供写真を一部改変

- 2 多段接ぎ木ナスは、慣行接ぎ木ナスと比べて青枯病の発病を遅延・抑制することができます（図1、2）。
- 3 青枯病未発生圃場では、慣行接ぎ木ナスと比べて、可販収量（A品、B品の合計）および優良品収量（A品）において、同じ結果となりました。

- 4 多段接ぎ木ナスは、青枯病抑制効果がありますが、完全に抑えることは出来ません。栽培中の二次伝染を防ぐために、管理作業用のハサミは消毒し、罹病株を早期に根ごと抜き取る等の処置を徹底してください。
- 5 民間企業による苗生産供給体制が確立され、苗を購入することができます。

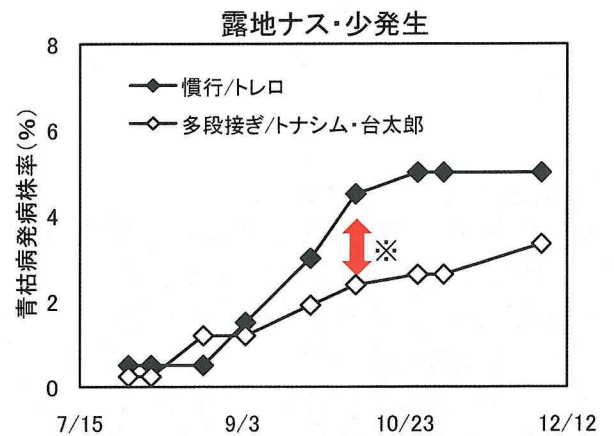


図1 平成26年富岡市現地圃場での青枯病発病抑制効果

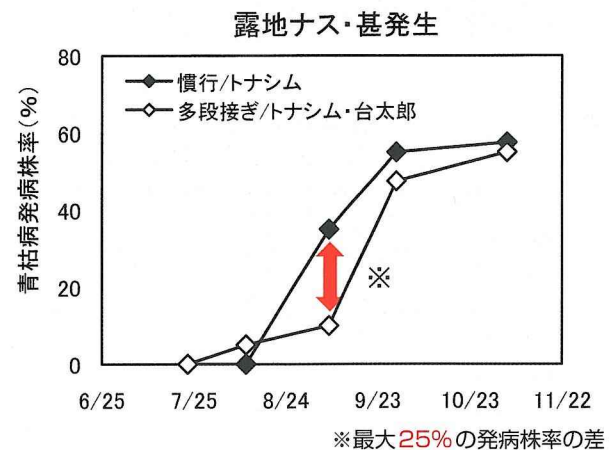


図2 平成27年東吾妻町現地圃場での青枯病発病抑制効果

今後の取り組み

青枯病および半身萎凋病の両病害に対する発病抑制効果について、半促成栽培においても、検証する予定です。

（執筆者：古澤 安紀子）